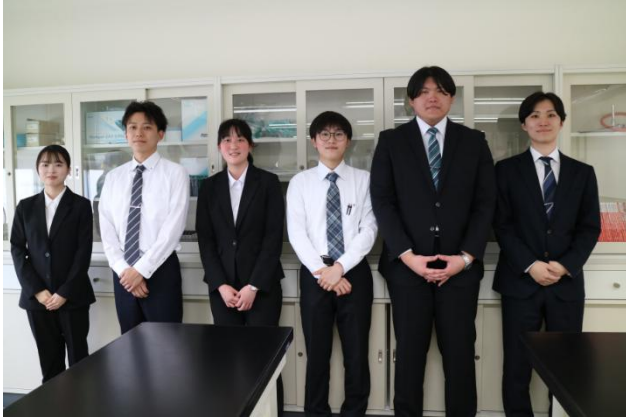


図書館だより 6月

青森県立五所川原高等学校図書委員会
第2号 令和8年6月22日発行
担当：25HR

教育実習の先生6人に図書館の利用方法や大学の研究についてインタビューしてみました。



研究内容に興味を持ったきっかけ

中学、高校時代の「面白い」、「あこがれの先生がいた」

大学でゼミの先生と出会ったから

身の回りの自然現象から環境問題への関心

図書館の利用方法

8時～21時くらいまで開館

- ・論文を読む 専門書が豊富にあるらしい…
- ・研究に必要な本を読む、借りる
- ・勉強をする

調べるときのポイント

- ・論文や情報はできるだけ新しいものを参考にする
- ・先行研究は調べられる限り調べる
- ・2つ以上の情報を比較して、正しい情報なのかを確かめる
- ・論文検索: Google Scholar、CiNii (論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報を検索できるデータベース)、国立国会図書館サーチ (有料版) など
- ・AI は、論文の要点をまとめるときや複数の論文を比較するときに利用する
⇒あくまでも補助的に！
- ・ニュートンやダーウィン、大学の先生の本を参考にする
- ・専門に関する内容は英語のもの、日本を研究対象にする場合は日本語のものを読む

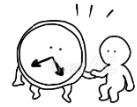
研究でわからないことがあるときは、インターネットや図書館で調べている。利用する図書館は市立よりも大学の方が多いそうです。





勉強方法の工夫 高校時代は、日中(休み時間)に課題を
終わらせるようにしていたそうです！

- ・あらかじめ勉強時間を設定し、メリハリをつけて取り組む！
- ・隙間時間を有効に使う
- ・学校の教材や過去問をフル活用する



探究活動の際、手軽なインターネットで知りたいことを調べる機会が多いと思います。しかし、インターネット上の情報は便利である反面、信用できるソースが限られているという課題もあります。だからこそ、確かな情報源として「本」を活用することが大切です。高校の図書館では専門書に限りがある場合もありますが、必要な書籍があれば先生に相談することで、購入や取り寄せの対応をしてもらうことが可能です。インターネットの情報だけで終わらず、信頼できる本や便利なサポート機能をそろえた図書館を皆さんの探究活動のためにぜひ賢く利用して下さい。

研究には、**確かな基礎**

知識が大事だと大学の
先生は言っているよ！



京極堂(百鬼夜行)シリーズ



見る者を圧倒する分厚いレンガ本が本屋に並ぶため、本好きなら誰もが名前は知っている**妖怪作家・京極夏彦**が書いたシリーズ。1950年代の戦後日本を主な舞台とした**推理小説**で、**民俗的世界観**をミステリーの中に構築している点が特徴である。作中に実体として登場はしないが、個々の作品のタイトルには必ず妖怪の名が冠せられており、その妖怪に関連して起こる様々な奇怪な事件を「京極堂」こと中禅寺秋彦が「憑き物落とし」として解決する様を描く。

今年の本屋大賞8位「**探偵小石は恋しない**」では、シリーズ2作目の「**魍魎の匣**」が主人公の探偵2人が好きな本として紹介、小道具として出てきている。その他にも「**人を殺せるほどの厚みのある通称鈍器本シリーズ**」と紹介されている。辞書より分厚い文庫本、怖い物見たさでも一見の価値あり！

図書室では、皆さんのリクエストをお待ちしています。気軽に声をかけてください！

